

自分らしく働く場は地域にある

経営トップ講義

@県立大 2019~20

「ビジネス経済の実践」要旨

⑥



「就職先として田舎や島も考えてほしい」と話すポー代表

県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

合同会社 t e t o b a
(手と場)代表

ポー麻梨絵氏(32)

五島市富江町の空き家を改装し、2018年1月からシヨップ併設のカフェを始め。地元の食材を使った食事を提供し、島の魅力を発信。「五島との一期一会」をサポートする場所にしたいと考えている。

空き家の改修には住民のほか、長崎大の学生らの力を借りた。クラウドファンディングも活用して資金を集めた。いろんな人の「手と手」を合

わせて「場」をつくったことを店の名前とした。19年8月に法人化した。従業員は3人。カフェのほかに、商品パッケージや企業ロゴのデザインを手掛け、現在はゲストハウスの準備を進めている。

前、地域おこし協力隊として移り住んだ。それまでは東京のアパレルブランドで広報を担当していた。ファッションに興味があり、大学卒業後は洋服のデザインを専門学校で学んだ。憧れて入った業界だった。しかし、ファッションシヨ

ーがあるたびに、寝られないほど忙しかった。そうした日々を続けるうち、何をやっても私でなくてもいいのでは」と疑問を抱くようになった。そんな中、息抜きを兼ねて友人の結婚式を裏方として手伝った。ドレスを作ったり、コンセプトを考えたりしたりした。これは得意で、とにかく楽しかった。もっと突き詰めたいと思い、退社した。

今は、景観が美しい五島の資源を最大限に使い、オリジナル結婚式のプロデュースを事業にしようと計画している。平均費用を1組当たり約350万円と試算。5年後までに軌道に乗せて年間12件を目標としたい。仮に年間6件だったとしても、継続できるよう別事業も伸ばしたい。

イベントでは「手仕事」に着目し、「ハンドメイドマーケット」を企画。今年は53組が来店し、2千人が来場した。全体の売り上げは300万円ほど。まだ成長段階だ。五島ならではのイベントに成長させたい。

法人として歩き始めたばかり。1人の夢だったことが会社の目標となり、仲間と一緒に実現に向けて動き出したところだ。

五島との一期一会支援

次回10日に掲載します